

Chulabhorn Royal Academy 主催の第 2 回災害救急医療マネジメント会議で基調講演を行いました (2025/8/7-9)

テーマ：Resilience & Sustainability in Action (活動のレジリエンスと持続性)
会場：Centara Grand at Central Plaza Ladprao、バンコク、タイ

2025 年 8 月 7 日 (木) ~9 日 (土) にわたって開催された Chulabhorn Royal Academy (CRA) 主催の第 2 回災害救急医療マネジメント会議において災害医学研究部門の江川新一教授 (災害医療国際協力学分野) が基調講演を行いました。CRA はチュラボン王女によって設立され、バンコクで救命救急士を養成している大学です。昨年に引き続いて開催された CRA Disaster and Emergency Management Conference (CDEM) は、Resilience & Sustainability in Action (活動のレジリエンスと持続性) をテーマに、自然ハザード、人為的ハザードを含めた多様な災害にどのように考え、対処すべきかを救命救急士をめざす学生たちが組織委員会に加わって主体的に考える貴重な機会となっています。

江川新一教授は、「保健医療システムの災害への備え：いかに防災を国の健康政策に組み込み、仙台防災枠組と WHO の災害・健康危機管理枠組に沿った形にするか」のタイトルで講演を行いました。参加者がスマートフォンで QR コードを読み込むことで、意見の収集ができる形の双方向性の講演を行い、学生が国のトップレベルの防災・保健関係者に意見を提示できる機会を作りました。

会議では、2025 年 3 月末に隣国ミャンマーで発生した巨大地震への対応や、つい先日停戦にいたったタイ・カンボジア間の武力紛争における軍民協働のあり方、世界各地から招聘された災害医学の専門家による緊急対応の考え方などが話し合われるとともに、保健医療分野以外の研究者による防災の研究発表が行われました。江川教授は発表の審査員として研究についてのコメントと評価を行いました。また、タイ各地からの捜査救援チームによる災害対応シミュレーションラリーが開催され、暴風雨、熱、事故、火災の 4 つのコーナーで日頃の訓練で鍛えられた災害対応を競い合いました。また、通訳をつけながらも英語でさまざまなシナリオに対して対応するテーブルトップシミュレーション (机上訓練) も行われ、実践につながる訓練のあり方を学ぶよい機会となりました。優秀な対応をしたチームは閉会式で表彰され、つぎへの励みとなりました。

タイは ASEAN 諸国の中でも災害・救急医療におけるリーダー的な役割をしています。CDEM の参加者がお互いに顔が見える関係を築き、ASEAN および世界中の災害保健医療がレジリエントで持続可能な活動をつづけることが望めます。第 3 回の CDEM は 2026 年 7 月にバンコクで開催されます。

文責：江川新一 (災害医療国際協力学分野)
(次頁へつづく)



CRA の学生、タイ災害医療の要職の方々、国際演者全員の写真



災害リスクと仙台防災枠組について
 基調講演を行う江川教授



パネルディスカッションで災害統計に
 ついて議論する江川教授



災害対応ラリーの様子



事故対応コーナーの様子



英語での机上訓練に
 熱心に参加する学生たち



主体的に会議を運営した
 CRA で救命救急士をめざす学生たちと
 国際招聘演者たち